会長の時間　　令和５年２月２７日第２０７８回例会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会長　田中和俊

　イマジンロータリー！私は今年の４月で５４歳になります。これから「老いてくる」んだなと感じてきています。老後の資金という意味では、私は年金も国民年金ですから心配なんです。ですから開業したときに司法書士年金基金に加入しておりますし、銀行からの勧誘で確定拠出年金イデコにも入っておりますが、それだけではぜんぜん足りませんし、まだまだ不安ですからなるべく長く働かないといけないなあと思っております。健康面はというと、おかげさまでほとんど風邪もひかないのですが、これからのことを考えるとやはり不安です。私の高齢の母も、７年前に介護保険要支援２で入居したサービス付き高齢者住宅から、昨年の１１月に特別養護老人ホームに移りました。前の施設は部屋を賃借して、ベッドやテレビ、ソファ、冷蔵庫や棚を持ち込んで生活し、食事つきで、介護保険を使って介護してもらうスタイルでしたが、コロナ以降あまり人と会えないこともあり、頭だけはしっかりしていた母も認知症が進んでしまいました。以前は「死ぬ気がしない」と豪語していた母もたまに電話が通じると「もうダメだ」と言うようになりました。面会もできない時期も続いたので心細くなったのでしょう。職員さんが部屋に行くと、床に転倒していたことが何度もあり、そのたびに脳外科に連れて行ったりと大変でした。施設の人は主治医のところには連れて行きますが、外来受診の際は病院には付き添わないのです。部屋の中のトイレに行くのも不自由な状態でしたので、母のことも心配ですし、私たちもいつ施設から連絡が来るのではないかとハラハラでした。そこでケアマネージャーさんに相談して、母に適した施設を探してくださる会社を紹介してもらって、今回の特別養護老人ホームに決めました。一昨年、完成したばかりでまだ満床になっていない施設でしたのでとても幸運でした。ホームの生活指導員の方もとても親切な女性で、ここなら安心だと思いました。前の施設に施設を移ることを話すと、相談してくれたらよかったのにと言われましたが、介護のスタイルが違うし、母も要介護３になったので、特別養護老人ホームに入居できるようになったので、迷いはありませんでした。面接や主治医の確認を経て、最初の相談からわずか２３日後には、施設を移ることができました。その特別養護老人ホームは、病院受診の必要があるときは、施設の車で連れて行ってくれて付き添ってくれるし、家族は直接病院に来ればいいということで、私たちもホッとしました。入居して２日後の新しい主治医の受診の際に付き添った妻によると、たった２日で見違えるように元気になっていました。特別養護老人ホームはすべてお手伝いしてくださるし、着る物も選んで着せてくれるようで、母もお友達もできて楽しそうでした。今回の母のことで思ったのは、施設も完ぺきではないですし、やはりできるだけ自分が元気でいないといけないということでした。そのためには今からやっておかないといけないことがあると思います。それを次回からご紹介していきたいと思います。お楽しみに。